令和８年４月２日　１４：００現在
保健医療局 保健所 感染症対策課　担当　加藤、葛原　　電話　７９１－７０８１　内線１９９－１３６

麻しん（はしか）患者の発生について

令和８年４月１日に福岡市保健所管内において、今年１例目となる麻しん患者の発生がありましたのでお知らせします。

１ 患者が利用し不特定多数の方と接触した可能性のある施設及び公共交通機関
利用なし。

２ 患者概要

年代	性別	症状	海外渡航歴	ワクチン接種歴	発病日	備考
20 代	女	発熱、咳、発疹	なし	2 回	3 月 27 日	

≪市民のみなさまへ≫

○ 麻しんが疑われる症状(別紙参照)が出た場合、事前に医療機関へ連絡の上、マスクを着用して医療機関の指示に従って受診してください。受診の際には、感染を拡大させないように公共交通機関等の利用は控えてください。
○ 麻しんは予防接種で防げる病気です。麻しんの定期予防接種（第１期：１歳児、第２期：小学校就学前の１年間）の対象で、未接種の方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
○ 本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものであり、患者やその家族・関係者等を特定する行為や各施設への風評被害がないよう、格段の御配慮をお願いします。

３ 行政の対応
保健所において患者等に対し健康調査、疫学調査を実施し、接触者に対し健康観察を実施しています。

お　願　い

報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないよう、格段の御配慮をお願いします。

別紙１

麻しん（はしか）について

○ 麻しん（はしか）は、感染力はきわめて強い感染症で、感染すると10～12日後に、発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～4日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現すると言われています。

○ 麻しんウイルスの感染により免疫が一時的に低下し、細菌やウイルス等による二次感染を受けやすくなり、また合併症により重症化する可能性があります。

○ 肺炎や脳炎などの重篤な合併症がみられることがあり、注意が必要です。

≪感染予防とまん延防止のために≫

○ 麻しんは、感染力がきわめて強く、手洗いやマスクのみでの予防はできず、症状が出る前日から、ヒトからヒトへ感染させると言われています。

○ 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。

○ 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。

○ 麻しんの予防接種歴がない方で、麻しんを疑う症状が現れた場合、事前に医療機関に連絡し、指示に従って受診してください。

≪麻しんの予防接種について≫

○ １歳になったら１回、小学校入学前の１年間にもう１回予防接種を受けましょう。
「生後１２月から生後２４月に至るまでの間にある者」及び「５歳以上７歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の１年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができます。

○ 上記以外の方で、麻しんの予防接種を希望される場合は、任意接種（費用は自己負担）を医療機関で受けることができます。

○ 麻しんの流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行情報は検疫所のホームページ（http://www.forth.go.jp/）で確認することができます。

≪参考情報≫

麻しんについて（厚生労働省ホームページ）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html
麻しんとは （国立健康危機管理研究機構ホームページ）
https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/measles/detail/index.html